

商船系大学における海事人材育成に関する懇談会 意見まとめ

1. はじめに

- 本懇談会は、海事クラスターが求める人材の育成に向けて、総合海洋政策本部参与会議海洋産業の競争力強化に関するPTでの議論を踏まえ、商船系大学における海事人材育成のあり方について検討を行った。
- 検討過程においては、独立行政法人海技教育機構（以下「JMETS」という。）が実施する乗船実習教育等について、時代の変化に即した質の高い効率的な運営体制の構築に向け、産官学が現状と課題について共通認識を図った。
- 特に、船員養成の観点では、JMETSの乗船実習における多科配乗の緩和・解消に向けて産官学が必要な取組を進めることの必要性が確認され、懇談会の下で開催した作業部会での検討も参考に、懇談会において以下のとおり方向性を取りまとめる。

2. 効率的・効果的な乗船実習教育等に向けた方向性

（1）速やかに取り組むべき方向性

- 本懇談会では、JMETSの乗船実習における多科配乗を可能な限り速やかに緩和・解消することを目的とすることから、現行制度の範囲内で可能な乗船実習の配乗時期等の見直しを段階的に進めることで合意した。
- 見直しに当たっては、以下に示す方向性に沿って、JMETS、東京海洋大学、神戸大学の関係者間で十分な連携を図り、具体的な配乗計画の策定や取組の実施を進めることが望まれる。
 - ・ JMETSにおいては、海技大学校の教育コースの再編統合を検討するとともに、6級海技士の乗船実習についても多科・多人数配乗に配慮して実施する。
 - ・ 東京海洋大学においては、学部1～2年次のいずれかに1か月及び3年次2か月の乗船実習を3か月ユニットの中で連続実施する方向で検討を

進める。この際、カリキュラムの改定が必要になるが、2024年度入学者から適用されるよう学内及びJMETS等との調整に努める。

- ・ なお、神戸大学においては、2023年度から学部3年次3か月の乗船実習を行う予定であり、大学全体の学事暦（学士教育課程）にも考慮してJMETSと協議を進める。この際、必要に応じて、制度を所管する国土交通省において運用面での検討を行う。

- 今後の具体的な調整は関係機関間で行われることになるが、これらの取組を進めることで、別添1の実習生配乗表のとおり乗船実習が実施されることが見込まれ、別添2の現行に比べて多科配乗や乗船率が緩和されることから、質の高い乗船実習となることが期待される。

（2）この他、引き続き検討されることが望まれるもの

- 本懇談会において、十分に議論を尽くすことができなかつた論点も多くあった。現行制度の下では、商船系大学及びJMETSの取組のみでは改善も限定的であると考えられることから、適宜、商船系大学の所管である文部科学省、船員養成制度及びJMETSの所管である国土交通省の積極的な協力のほか、船員の働く場である産業界等からの協力などにも期待したい。
- なお、本懇談会において問題提起された論点について以下のとおり例示しており、今後、関係省庁、JMETS、商船系大学、産業界を含む産官学の関係機関で検討するに当たっての参考になればと考えている。

（論点の例）

- ・ JMETSの教育体制の強化に向けて、教育資源の充実を図ること。
- ・ 国際条約等との整合性など課題はあるものの、より柔軟な乗船実習計画が可能となるよう、船舶職員養成に関する告示等の見直しや制度の解釈を整理することなどの検討等を進めること。
- ・ JMETS及び商船系大学における双方の教育内容について検証し、より効率的・効果的な教育・訓練に向けて、調整を図ること。
- ・ 神戸大学の学部3年次3か月の乗船実習の実施に伴う、学生の進路選択、乗船実習の成果、卒業後の状況等の検証に努めること。
- ・ 上記の検証結果を踏まえ、東京海洋大学においても、乗船実習時期の学

部3年次3か月への見直しについて検討すること。

- ・ 学部在学中の乗船実習時期の見直しに伴い、低学年次の学生に対して JMETS あるいは産業界等の協力による特別講義や施設見学等の実施を検討すること。
- ・ これまでに実施されてきた協力の実績に加えて、産業界等から JMETS 及び商船系大学への教員派遣等の協力を検討すること。

3. おわりに

- 本懇談会では、我が国の船員養成を担う JMETS 及び商船系大学が現状と課題について認識し、まずは JMETS の乗船実習における多科配乗の緩和・解消に向けて議論を行い、上記2. の方向性について共通理解を図ったところであるが、具体的な取組に向けて関係機関間での協議が継続されることが必要である。
- また、本懇談会の目的でもある海事クラスターが求める人材の育成に関しては十分な意見交換を行うことができなかったが、脱炭素化、デジタルイノベーションなど海事クラスターを取り巻く環境も大きく変化しており、商船系大学における人材育成の更なる高度化が求められている。
- 我が国は四方を海に囲まれた海洋国家であり、海事クラスターの持続的な成長が不可欠である。産業界等と一体となって商船系大学の教育研究活動が発展することを期待したい。

(参考1) 懇談会の開催状況

第1回：令和3年 7月 2日（金）

- ・東京海洋大学及び神戸大学から取組状況について説明、意見交換

第2回：令和3年 7月30日（金）

- ・国土交通省及び独立行政法人海技教育機構からの説明
- ・我が国における海事人材育成について意見交換

第3回：令和3年 9月17日（金）

- ・東京海洋大学及び神戸大学から学生アンケート結果について説明
- ・商船系大学における海事人材育成について意見交換
- ・作業部会の設置について

第4回：令和4年 1月17日（月）

- ・意見のまとめ（案）について

※ 第3回～第4回の間、関係機関の実務者を入れた作業部会を4回開催し、多科配乗の緩和に向けて具体的な意見交換を実施した。

(参考2) 懇談会の構成員（敬称略）

乾 眞	独立行政法人海技教育機構理事
内田 誠	神戸大学大学院海事科学研究科教授
塩川 達大	文部科学省高等教育局専門教育課長
庄司 るり	東京海洋大学理事（学生支援・広報担当）
（座長）竹内 俊郎	東京海洋大学 前学長
春名 史久	国土交通省海事局海技課長

※ オブザーバーとして、独立行政法人国立高等専門学校機構、一般社団法人日本船主協会、内閣府総合海洋政策推進事務局が出席した。

(別添1) 見直し後の実習生配乗イメージ

Plan C-3 : 東京海洋大は短期実習を1月+2月に神戸は3年次に集約 (3/四期・ユニット1)

備考)
 A : 大⑤N35名 (△社船実習10名を除く) のうち、帆船実習希望者を20名。
 B : 大⑤N15名及びE35名 (△社船実習10名を除く) の合計50名。
 C : 高専⑥N90 (△社船実習10名を除く) のうち外航船社採用予定者 (10名) を除く80名 + E90 (△社船実習10名を除く) のうち20名 = 合計100名。
 D : 高専⑥NE : 外航船社採用予定者各10名。
 E : 高専⑥E90名のうち、「C : 20名 + D : 10名」を除く60名。
 F : 東京海洋大短期実習を1or2年次1月 (120名)、3年次2月 (70名)。

大学	3級: 東京海洋大学、神戸大学
海大	3級: 海技大学校 (専攻科、専修科)
高専NE	3級: 高等専門学校
海短	4級: 海上技術短期大学校
海校	4級: 海上技術学校
	— 遠洋航海実習期間

船名 (定員)	4, 5, 6月		7, 8, 9月		10, 11, 12月		1, 2, 3月	
日本丸 (120)	海短② I	115	海短② II	80	海短② III	120	海短① I	120
海王丸 (108)	大学N⑤ III 高専N (社船実習△10名) E⑥ III	20 100	海校④ III	100	高専NE④ I II	100	大学N④ II 海大N① I	85 25
大成丸 (120)	海短② I	115	海短② II	120	海短② III	120	海校③ I 海短① I	110 10
銀河丸 (180)	大学NE⑤ (社船実習△20) III 海大NE② II 高専NE⑥ III	50 50 20	大学NE⑤ (社船実習:△20) IV 海大NE② (社船実習:△40) III	70 10	大学①or② 東京 I 70 大学NE③ (東京) I 70 大学NE③ (神戸) I 90 海大NE② (社船実習:△40) IV 10	70 70 90 10	高専NE④ II 120 海大E④ I 25	高専② I 120
青雲丸 (180)	海校④ II 海短② I 高専E⑥ (社船実習△10名) III	100 20 60	高専NE⑥ (社船実習△20名) IV	180	大学①or② 東京 I 50 高専NE④ I II 100 海短② III 10	50 100 10	大学E④ II 75 高専NE④ II 80 高専② I 80	75 80
合計人数 (定員計:708)	650		560		670		650	
乗船率	91.8%		79.1%		94.6%		91.8%	

○数字:学年、ローマ数字:カリキュラム進度

(別添2) 現状の実習生配乗表 (2019年配乗表に、想定人数を反映)

船名 (定員)	4, 5, 6月		7, 8, 9月		10, 11, 12月		1, 2, 3月	
日本丸 (帆船) (120)	海校④	100	大学① (東京) 120*	大学② (神戸) 120*	高専NE④	120	高専② N 100	
海王丸 (帆船) (108)	大学NE⑤ (社船実習:△20) 海大 (本科) NE② 海大 (専攻) NE② 海大 (専修) NE②	70 10 30 10	海短②	120	海短②	110	大学N④ 80 海大 (専攻) N① 15	
大成丸 (汽船・内航) (120)	海短② 六級 24	90	海短② 海校④	80 40	海短②	120	海校③ 110	
銀河丸 (汽船) (180)	高専NE⑥ 海短②	20 160	大学N⑤ (社船実習:△10) 高専NE⑥	35 145	高専E④ 大学 (神戸) NE③	80 90*	高専② 100 海短① 70 六級 24	
青雲丸 (汽船) (180)	高専NE⑥	180	大学E⑤ (社船実習:△10) 海大 (本科) NE② 海大 (専修) NE② 高専N⑥ 海校④ 大学① (東京) 10* 大学② (神戸) 10*	35 10 10 55 60	大学NE② (東京) 130* 大学②N (東京) 40 大学③E (東京) 60 海大 (本科) NE② 10 海短② 20 六級 24	80 15 60	大学E④ 80 海大 (専攻) E① 15 海短① 60	
合計人数 (定員計:708)	694		720		680		654	
乗船率	98.0		101.7		96.0		92.4	

大学	3級: 大学 (東京海洋大学、神戸大学)	高専NE	3級: 高等専門学校
海大 (本科)	3級: 海技大学校 (本科)	海短	4級: 海上技術短期大学校
海大 (専攻)	3級: 海技大学校 (専攻科)	海校	4級: 海上技術学校
海大 (専修)	3級: 海技大学校 (専修科)	六級	6級: 民間六級

— 遠洋航海実習期間

* 大学1年・2年は、定員人数を想定